

公園剪定・刈り込み業務共通仕様書（建設課都市計画住宅係）

目的

樹木の剪定・刈り込みは、以下を目的とする。

- 1 美しい景観の維持
- 2 樹冠内の日照や通風を確保し、樹木の健全育成を促すこと
- 3 病虫害の予防
- 4 公園緑地等の利用や周辺交通等の障害となる部分、強風等により枝折れする恐れのある部分などを排除し、未然に事故を防止すること
- 5 公園敷地外への枝葉の越境を防止するなど、限られた生育空間内に樹冠が収まるよう形状を調整し、美しく整えること

剪定・刈り込みの基本的考え方

- 1 剪定は、樹木のもつ自然樹形を基本とし、樹木固有の美しさを保つように行うこと。
- 2 刈り込みは、整形を基本とし、人工的な美しさを保つように行うこと。
- 3 地域の生態系、樹木の生育状況、景観、都市機能、交通安全、周囲の環境に配慮すること。
- 4 樹種の特性を理解の上、種々の制約条件に応じて最も適切な方法と時期により行うこと。
- 5 花木の場合は、花芽分化時期に留意すること。
- 6 樹高が高くなり、枝が横に大きく広がる樹種は、維持する樹木の大きさや形状に配慮すること。
- 7 樹木が次の状況またはそれに近い状況にある場合は、担当職員と協議の上、前項までの事項にかかわらず、剪定・刈り込みを行うこと。
 - (1) 枝、葉等が、道路構造令（昭和45 年政令第320 号）で定める建築限界を侵しているとき。
 - (2) 枝、葉等が、道路を走行する車両等の視界の障害となり、信号機若しくは道路標識又は歩行者の確認が著しく困難であるとき。
 - (3) 架空電線（低圧防護具に収めた絶縁電線を除く。）又は架空電話線（引き込み線を含む。）から20cm（高圧の架空電線又は変圧器の場合は、1.5m）以内に樹木の枝、葉等が接近している場合。
 - (4) 照明灯の光を、枝、葉等が著しく阻害しているとき。
 - (5) 枝、葉等が公園緑地等の区域を越えて民有地に進入しているとき。
- 8 樹木についている不要になったしゅろ縄等、また、不用意に取り付けられた鉄線等は、作業に当たり除去すること。
- 9 樹木に材質腐朽菌によるキノコの発生、不自然な揺らぎ、傾斜等の異常を発見した場合は、担当職員に速やかに報告すること。

冬季剪定

- 1 樹冠の半分以上が落葉した状態（休眠期）の落葉樹について適用する。
- 2 落葉期（11～2月頃）を適期とする。

夏季剪定

- 1 着葉期の落葉樹について適用するが、剪定不適期で樹木への負担が大きいため、次の様なやむを得ない場合を除き原則として行わないこと。
 - (1) 台風などの強風により倒木の恐れのある樹木
 - (2) カロリナポプラ、シダレヤナギ、ニセアカシア、プラタナスなどの、枝葉の生長が著しく早く、風害に弱い樹種
 - (3) 薬剤散布出来ない場所で害虫が大量に発生し、対応できない場合
 - (4) 落葉期に剪定が出来ず、やむを得ず剪定の必要のある場合
- 2 出来る限り緑陰を保つように剪定すること。

常緑樹剪定

- 1 常緑樹について適用する。
- 2 初秋（9～10月）を適期とするが、梅雨頃（6～7月頃）に行うことも出来る。ただし、針葉樹の剪定適期については落葉樹の剪定適期と同様とする。
- 3 剪定方法は原則として基本剪定に準ずる。

基本剪定

目標とする樹形維持・形成のために、枝の骨格・配置を作ることを目的とした骨格枝剪定に適用する。

主に、枝降ろし、枝抜き剪定、切返し剪定によって、将来の枝の生長を予測した枝の数や長さ、配置を決め、不要枝を除去すると共に、整姿剪定を行って樹冠を整える。

整姿剪定

混みすぎによる枯損枝の発生防止や風害の予防などを目的とするもので、樹形・樹冠を整える程度の軽剪定に適用する。

原則として当年から前年の間に基本剪定を行った樹木を対象とし、主に枝抜き剪定と切返し剪定により、繁茂して混みすぎた枝数の整理（減少）を行い、切詰め剪定により樹冠の乱れを整える。同時に危険枝や支障枝、病虫害枝、ヤゴ、胴吹き枝等の不要枝の除去も行う。

剪定の方法《図1》《図2》

- 1 剪定の方法には、切詰め、切返し、枝抜き、枝降ろしなどがあるが、樹木の性状や生育状況に応じた方法を選択し、将来の枝葉の生育方向を見込んで行うこと。
- 2 枝の切除は枝の分岐部または芽の直上で行うこと。また、枝の付け根の枝組織と幹組織が混じり合っているカラーと呼ばれる部分を傷つけないよう、バークリッジを残してカラーにできる限り近く正しい位置と角度により剪定すること。
- 3 良く切れる鋏や鋸等を使用し、切断面は滑らかに仕上げること。
- 4 枝の途中または極端に細い枝を残して太枝を切るようないわゆる「ぶつ切り」は行わないこと。

- 5 太枝を切除する場合は、枝の自重で切り口の付け根から裂けることを防ぐために、切断予定箇所の数十センチ上の部分をあらかじめ切除し、枝先の重量を軽くした上で切り返しを行う「二段切り」を行うこと。
- 6 太い枝（概ね直径15cm以上）を剪定した場合は、必要に応じて切り口に殺菌・癒合促進剤を塗布する。

剪定すべき枝《図3》

- 1 枯れ枝や折れて落下する恐れのある枝、建築限界を侵して人や車に接触する恐れのある低い枝（危険枝）
- 2 架線に近接している枝や、照明灯等を隠す枝、民有地へ越境する枝、歩行者や車両の通行や視界を妨げる枝（支障枝）
- 3 病虫害に侵され、治療や駆除が出来ない枝（病虫害枝）
- 4 樹冠、樹形の維持や、樹冠内の通風や採光の支障となっており生育上不必要な枝（逆さ枝、からみ枝、平行枝、車枝、胴吹き枝、徒長枝、立枝、ふところ枝、ヤゴなどの不要枝）

制約条件がある場合の剪定

- 1 樹木の枝葉が、民地境界から原則として1.0m以上離れるように剪定する。
- 2 樹木の枝葉が、原則として架空電線（低圧防護具に収めた絶縁電線を除く。）又は架空電話線（引き込み線を含む。）から1.0m、高圧の架空電線又は変圧器から1.5m以上（垂直方向の場合は2.0m以上）離れるように剪定する。
- 3 樹木の下枝高は、道路側は道路構造令に基づく建築限界を侵さない高さ（車道側4.5m、歩道側2.5m）を確保し、園路や広場に面した部分は利用者に配慮した高さを確保するものとする。ただし、植栽後間もない樹高の低い樹木については、担当職員と調整のうえ当面の下枝高を定めて剪定する。

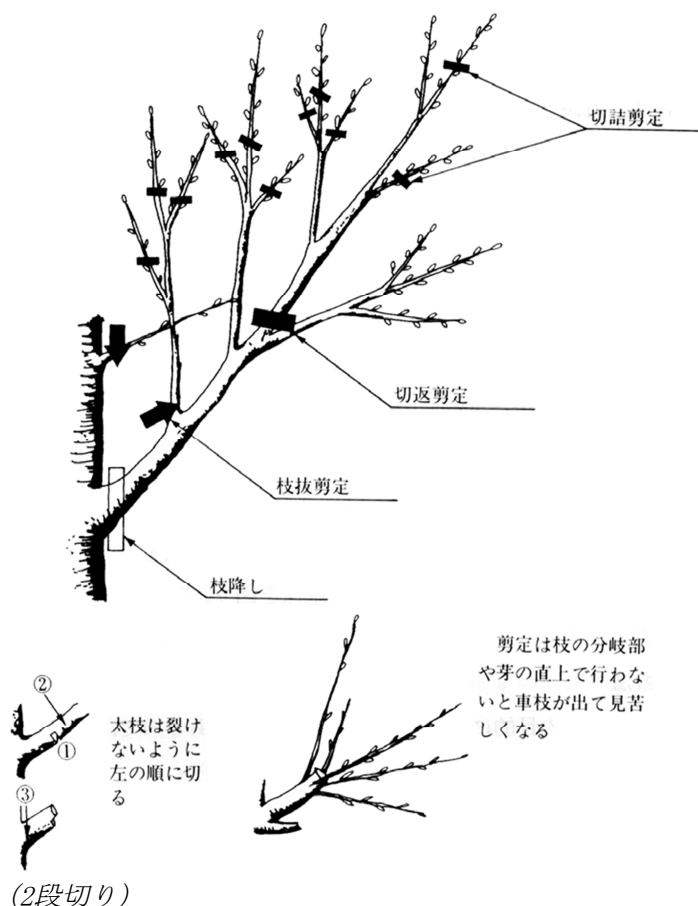
刈り込み

刈込鉋や刈込機を用いて樹冠などを刈り込み、樹形を整えるとともに、混み過ぎた枝や枯れ枝を除去し、通風、採光を確保するように行うものとする。

刈り込みの方法

- 1 樹形全体に凹凸のないように、一定の形又は一定の高さに刈り込む。
- 2 花木の刈り込みにあたっては、花芽分化時期に留意すること。
- 3 ベンチなどの背後や歩道に沿って植栽されている中低木の刈り込み、剪定作業に際しては、尖った切断面が生じないよう、鉋で切り戻すなどの適切な措置をとること。
- 4 刈込機で刈り込んだ後、裂けたりつぶれたりした枝の切り口や、枝葉の表面に出た太枝などは、鉋で切り戻すこと。
- 5 枯損枝は、切除すること。
- 6 刈り込みの出来高の面積は、投影面積とする。
- 7 玉物、トピアリー等、特殊な仕上がり形状の刈り込みに当たっては、施工方法、仕上がり形状等を担当職員に確認すること。

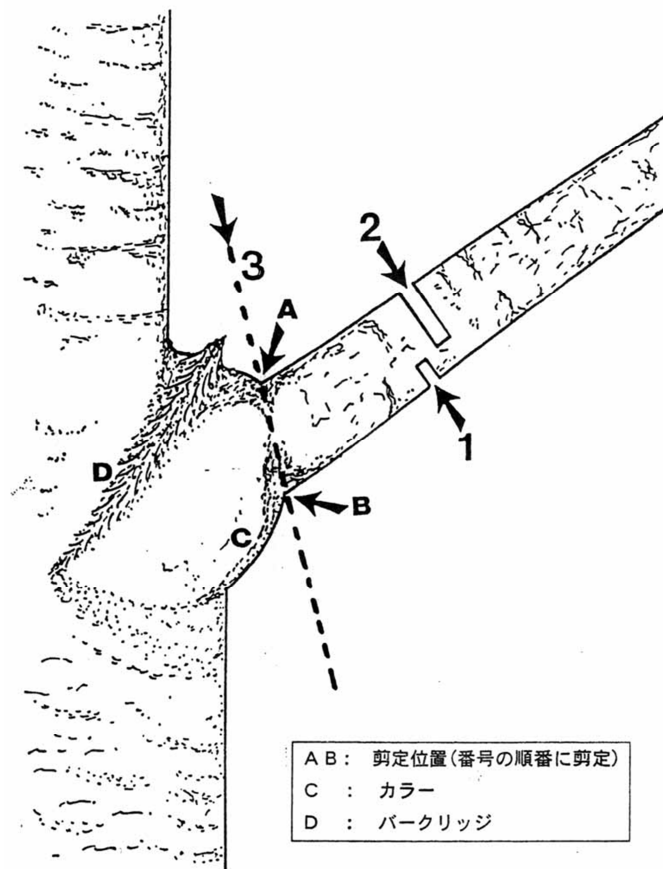
図1 剪定の方法（一般的に①から④の順で行う）



（出典：道路緑化基準・同解説 第5版 （社）日本道路協会）

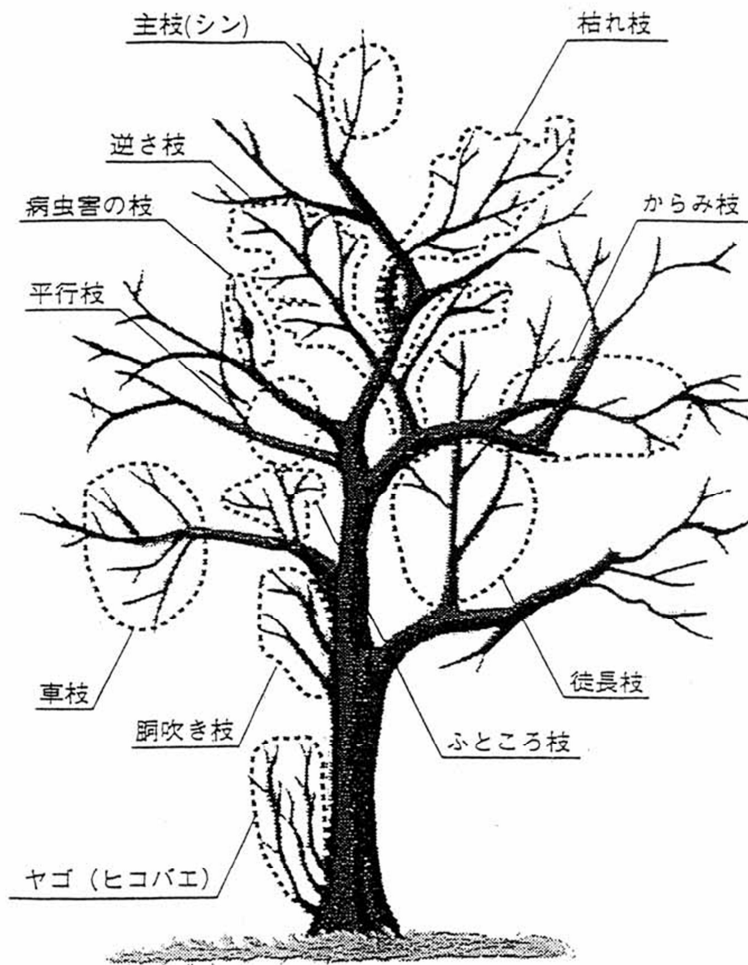
- ① 枝降ろし：主幹から出る太枝（主枝）を幹との付け根（分岐部）から切除するもので、骨格づくりや下枝上げなどに用いる。切除する位置や角度、順序に特に注意を要する。
- ② 枝抜き剪定：主に不要枝を取り除く最も基本的な剪定方法で、骨格となる保全すべき枝を選択し、その他の不要枝を枝の付け根（分岐部）から切除する。
- ③ 切戻し剪定（切戻し）：長くなった主枝あるいは副主枝（一般的には前々年以前に伸長した古い枝）を枝の途中（分岐部）で切除する剪定方法で、樹冠の大きさを大幅に縮小する場合や、主枝、副主枝を別の枝と交代させる場合などに用いる。縮小しようとする長い枝（太枝）の途中から分岐した短い枝（細枝）を残し、分岐部（付け根）から長い方の枝を切除する。
- ④ 切詰め剪定：新生枝（一般的には前年に伸長した新しい枝）を枝の途中（芽の上）で切除して樹冠の大きさを調整する場合や、切断部から萌芽する新たな枝によって枝振り（枝の配置）を再構成する場合に用いる。自然樹形仕立ての場合は原則として行わない。伸ばそうとする外向きの定芽の直上部を斜めに切断する。なお、刈り込みについても切詰剪定の一種である。

図2 剪定の方法（バークリッジとカラー）



(出典：現代の樹木医学 要約版 第2版 Alex L, Shigo 著 日本樹木医会 訳・編)

図3 剪定すべき枝



(出典：緑化樹木の剪定技術 (財) 日本緑化センター)

- ① 主枝 (シン) と競合する枝 (競争枝) : 主幹の軸となる主枝より高く長く伸びた枝
- ② 枯れ枝 (下がり枝) : 枯死した枝
- ③ 逆さ枝 : 外側に伸びる性質に逆らい、枝の下や内側に向かって伸びる枝
- ④ 病虫害被害枝 : 病虫害に侵された枝
- ⑤ からみ枝 (交差枝) : 他の枝に絡みついたような形になっている枝
- ⑥ 平行枝 (重なり枝) : 同じ方向に伸びる上下に平行した枝
- ⑦ 車枝 : 切除された場所から放射状に複数出ている同年枝
- ⑧ 胴吹き枝 (幹吹き枝) : 幹から直接発生した小枝
- ⑨ 枝徒長枝 (トビ・飛び枝) : 本年生枝、前年生枝の中で、他の普通の枝より異常に長く伸びる枝で、組織が軟弱なものが多い
- ⑩ 立枝 : 幹に平行して上方に立ち上がっている枝
- ⑪ ふところ枝 : 副主枝よりも内側にある弱小な枝
- ⑫ ヤゴ (ヒコバエ・根吹き) : 根元付近から発生する小枝